

BOOK

「ソーシャルデザイン 実践ガイド」 -地域の課題を解決する7つのステップ-



著者： 寛 裕介 (hakuho i+d)

刊行： 2013年9月10日

出版社： 英治出版

定価： 2,200円+税

目次：

プロローグ 社会課題とソーシャルデザイン

パート1 ソーシャルデザインの行程

第1章 森を知る

第2章 声を聞く

第3章 地図を描く

第4章 立地を定める

第5章 仲間をつくる

第6章 道を構想する

第7章 道をつくる

パート2 ソーシャルデザインの実践例

エピローグ ソーシャルデザインのエッセンス

ソーシャルデザインとは、「森の中に道をつくる」活動です。

社会課題は、鬱蒼とした森のようなもの。足を踏み入れると出口が見えず、とらえどころがなく、道に迷うことも多い。ソーシャルデザインとは、そんな森に一本の道をつくる活動です。森を歩き、声を聞き、仲間をつくる。森の地図を描き、一番必要とされる場所に、必要な道を、橋を、小屋をみんなで作る。それがソーシャルデザインです。

本書では、そのようなソーシャルデザインのステップを、7つの行程に分けて、その方法論までをわかりやすく紹介しています。また、ソーシャルデザインの実践例についても豊富に掲載しています。実践例は、阪神大震災や、東日本大震災の現場で活用された「できますゼッケン」など、社会課題の解決に貢献した事例が含まれます。7つの行程について学ぶパート1と、事例を取りあげるパート2を通して、自らソーシャルデザインを手がけるための、様々なヒントを得ていただくことを目的としています。

著者は、hakuho i+dの寛 裕介。hakuho i+dは、「社会の課題に、デザインの力を。」を合言葉に、2012年4月に設立された、博報堂内のソーシャルデザイン専門組織。行政・市民・大学・企業が参加し、地域・日本・世界が抱える社会課題に対して、デザインの持つ美と共感の力で解決に挑みます。